

高齢女性用下衣の型紙設計を目的とした腰部形態の把握

○渡邊敬子* 松山容子** 古松弥生***

(*大妻女大院家政, **大妻女大家政, ***十文字学園女短大)

目的 わが国では、現在、大変急速な高齢化が進んでおり、高齢者用衣服への需要の急増が見込まれる。しかし、高齢女性の間からはスカートのウエストベルトが下がる、後ろ裾が下がるなどの問題が指摘され、体形適合性の向上が望まれている。そこで、本研究は、高齢女性用の下衣の適合性向上を目的として、三次元計測を行い腰部形状の把握と型紙設計への応用について検討した。

方法 1994から95年にかけて、首都圏在住の高齢女性(60歳～85歳)32名を対象に、体幹下部と大腿上部の右半身を三次元計測した。データ縮約のため、形状解析に使用するのは腸陵、腹部最凸点、臀部最凸点、転子外側点、股高、大腿部最凸点を通る6水平断面と実際のウエストラインの計7断面上の各21点のデータとし、これら計147点の三次元座標値を算出した。これに基づいて、各断面の輪郭線やそれらの重合図、及び外包囲線を求め、さらに体表面展開図を描いた。若年女性25名との比較において、高齢女性の腰部形態について検討した。

結果 高齢女性の外包囲線の長さは、転子外側点断面の輪郭線長の108%に相当し、この比率は若年の場合とほぼ等しい。転子外側点を通る垂線で前後を分けると、高齢女性では前面の外包囲線長と後面の外包囲線長がほぼ等しい。この前後の関係は、後面が前面を上回る若年女性の場合と異なる。また、体表面展開図に表れたウエストダーツ量の前後の割合を見てみると、高齢女性では前ダーツ量の割合が若年女性の場合よりも大きく、逆に後ろウエストダーツ量の割合は小さい。高齢女性が若年女性に比べ腹部の突出が大きいことや脊椎前弯部が扁平であることなどがその主な理由と考えられた。